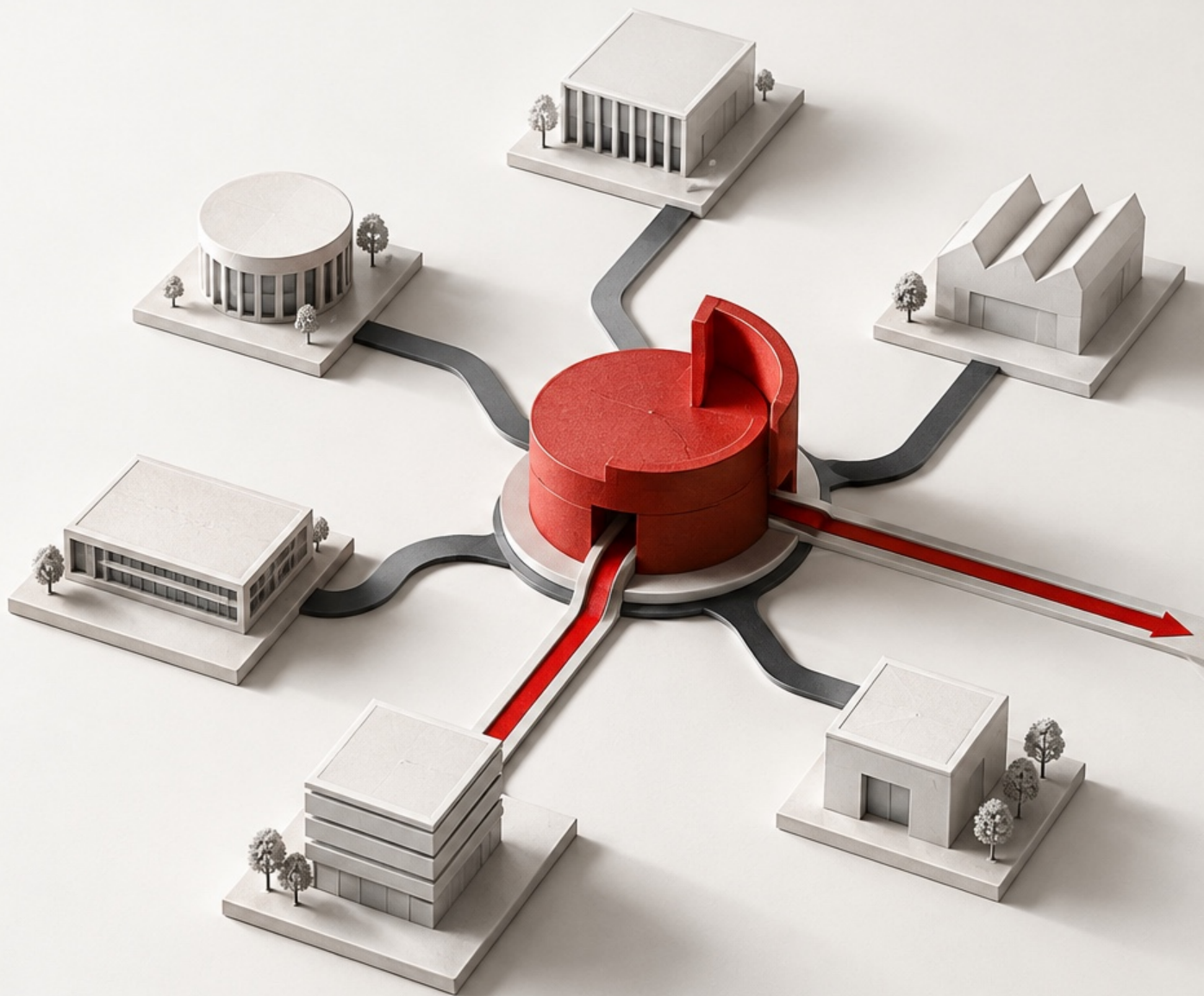


少人数企業のAI経営実装レポート 2026

AIで、 社長の限界を 超える。

営業・提供・改善をつなぎ、
事業を「自分だけで動かす状態」から変える。

23の一次資料 / 6つの実装手順 / 30日計画



AIで何ができるか、から。今の事業をどう変えるか、へ。

このレポートの結論を、最初の1分で。

01 変える対象

仕事の速度より、
仕事の流れ。

生成した文章を増やすだけでは、社長の確認待ちは残る。資料を渡す→作る→確かめる→届ける、までをつなぐ。

02 つくる価値

空いた時間を、
次の売上へ。

削減した作業を数えると同時に、増やす商談・商品・改善を決める。時間、粗利、現金支出を分けて追う。

03 始める単位

1業務を、
30日で回す。

過去の良い完成品があり、毎週発生し、採点できる仕事を選ぶ。完成見本と合格基準を先に用意する。

最初の到達点：社長が毎回ゼロから手を動かさなくても、1つの仕事が回る。

AIを触る会社から、仕事に組み込む会社へ。

日本企業の調査では、個人利用と業務への組み込みに大きな開きがあります。

AIを導入・試験利用

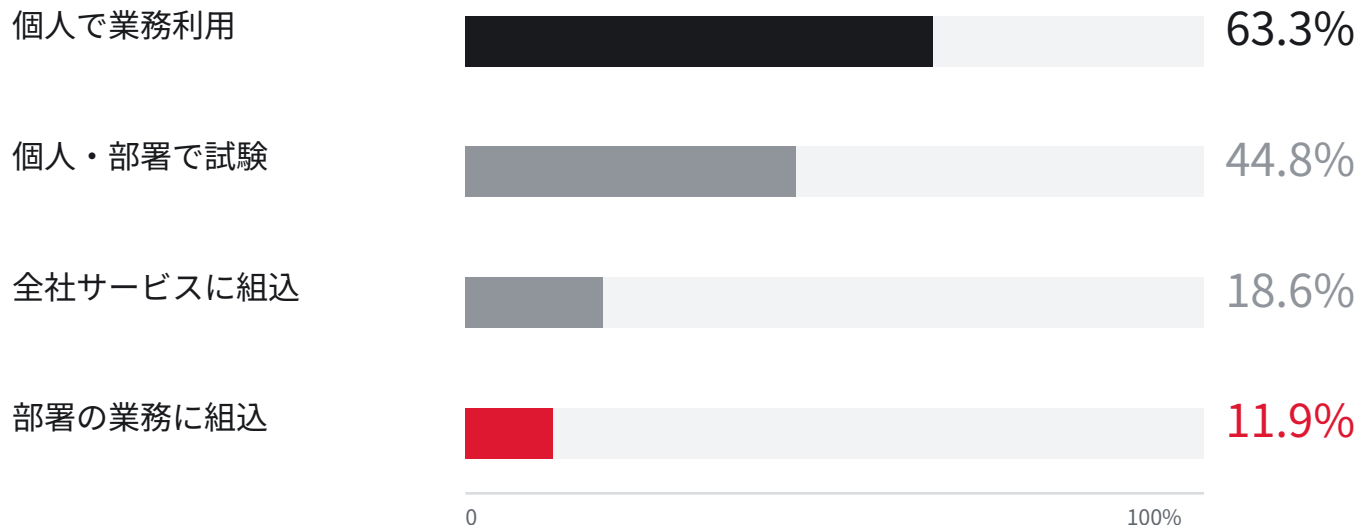
58.0 %

導入 42.3%

試験 15.7%

AI全般の設問
n=1,794

生成AIを導入・試験・検討している企業の利用方法



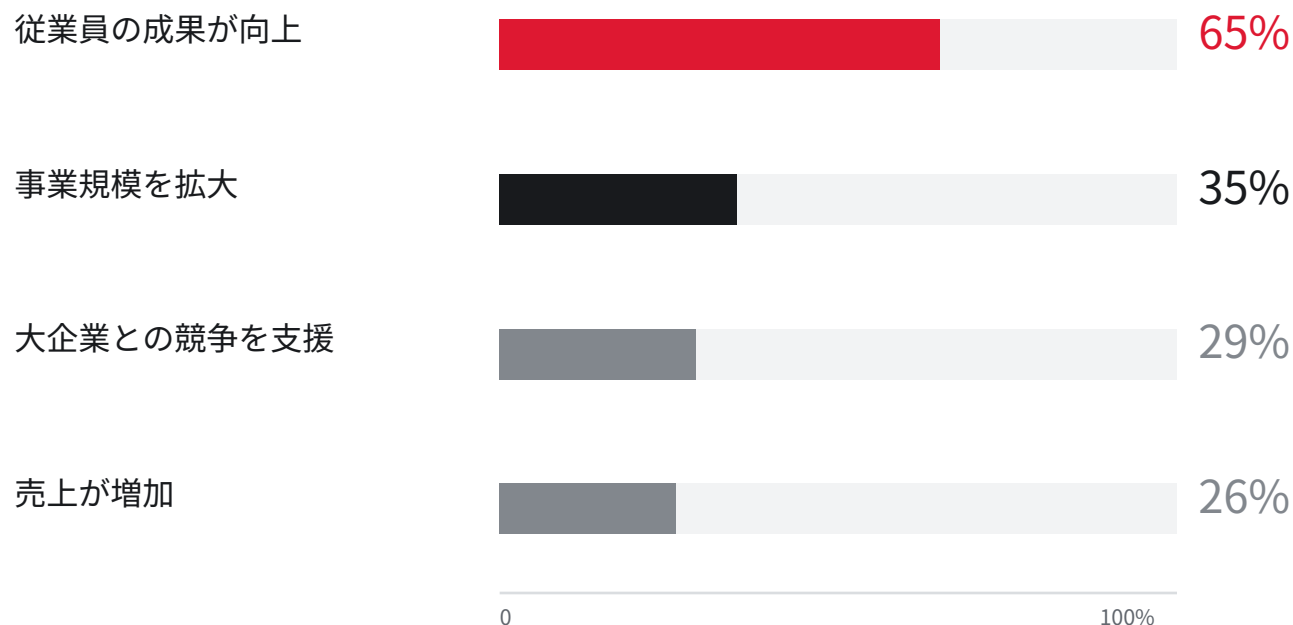
n=1,159・複数回答。左のAI導入率とは設問対象が異なる。

IPA「DX動向2026」図3-1・3-6／2026年実査（原図の年度表記は2025年度）

自社で見るべきこと：使った回数より、「毎週使える手順」がいくつあるか。

「仕事が良くなる」を、「売上が増える」につなぐ。

中小企業が感じた生成AIの効果。仕事の改善と収益の改善には、設計すべき距離があります。



CHIEROの読み解き

効率化の先に、
受注の経路を置く。

文章が速く書けるなら、提案先を増やす。分析が速くなるなら、失注理由を商品に戻す。成果を売上へ運ぶ工程まで決める。

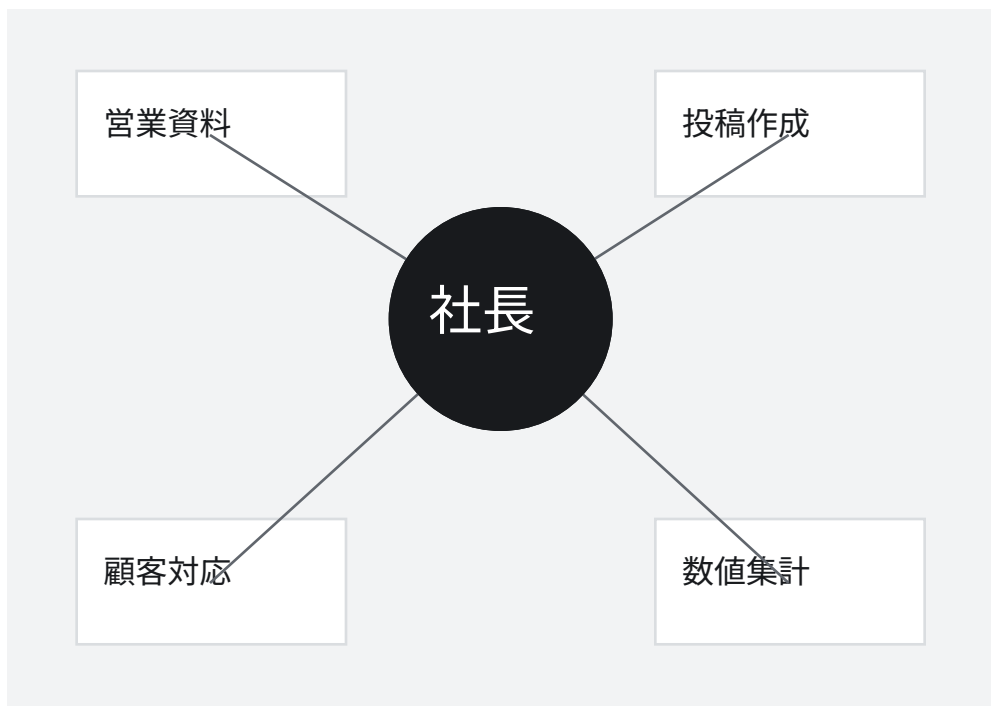
生成AI利用企業による自己申告。7か国のSME調査、全体5,000社超、2024年末実査／OECD、2025年11月公表。

例：提案作成の短縮 → 未提案先への提案 → 受注 → 提供 → 入金。各段階を測る。

社長が全部つくる会社から、社長が判断する会社へ。

仕事を丸ごと消すのではなく、社長が関わる場所を変えます。

BEFORE / すべてが社長待ち



AFTER / 判断を中心に、仕事の流れる



減らすのは、判断のための準備作業。増やすのは、顧客と向き合う余白。

年間2,400万円の収益機会を、逆算する。

試算例：AIで営業と提供の処理能力を広げる事業。必要な件数と粗利を明らかにします。

追加受注

1件あたりの粗利

10

件 / 月

×

20

万円

× 12か月

2,400 万円 / 年

売上ではなく、追加粗利の試算。
導入・運用の増加費は、ここから差し引く。

月10件を増やすには

必要な追加提案数 = 10件 ÷ 成約率25% = 40件 / 月

提案先の確保 → 返信・提案 → 受注 → 提供まで、どこが詰まるかを確認する。

商談が終わった日のうちに、次の提案まで。

商談メモ → 課題整理 → 提案骨子 → 社長が条件確認 → 送付

用意するもの

相手の発言メモ／商品説明／価格・範囲／採用した提案書1本

01 発言を分類

目的・制約・不安・決裁条件の4つに分ける。

02 提案を組む

課題→変化→実施範囲→進め方→確認点。

03 条件を確かめる

金額・納期・対応外を原資料と照合する。

完成見本 / CHIEROによる設計例

依頼メモ

「発信しているが相談につながらない。社長が毎回投稿を作っている」

提案骨子の例

目的：投稿を増やす前に、相談につながる導線を1本つくる。

第1週：既存投稿と問い合わせ経路を整理。

第2週：対象を絞った投稿と案内ページを試す。

確認点：過去の相談数・提供枠・計測方法。

AIへの指示

渡した資料から提案骨子を作成。顧客の発言と推測を分け、未確認の条件は質問として残す。価格・成果・納期を新しく作らない。

見る数字：提案までの日数／作成＋確認時間／提案後の商談率

30日で、1つの仕事を「回る状態」にする。

作り込む前に、試す。毎週の完成品と判断を固定します。

WEEK 1

選ぶ・測る

対象業務を1つ選ぶ。
従来の時間を5件記録。
良い完成品を1本用意。

完成品：業務の設計書

WEEK 2

つくる・比べる

自社前提をAIに渡す。
5件のテストを実施。
修正理由をまとめる。

完成品：試作＋採点表

WEEK 3

実務で回す

確認者と承認範囲を固定。
実案件に少量ずつ適用。
時間と反応を記録。

完成品：使える手順

WEEK 4

判断・更新する

時間・品質・粗利を確認。
続ける／変える／止める。
次に変える工程を選ぶ。

完成品：30日レビュー

予定に入れるのは「AIを勉強する時間」ではなく、完成品と判断をつくる時間。